

道徳教育実践報告：中学校の道徳教育

佐々木 隆

プロローグ

2021年7月10日（土）に私立武蔵野中学校で「道徳」のゲストスピーカーとして2時間の授業を行う機会があった。筆者は同校（武蔵野高等学校・武蔵野中学校）については1992年4月～2001年3月に英語の非常勤講師として勤務していた経験がある。現在は教職課程ではいわゆる「道徳」に特化した科目の担当はないが、「総合的な学習の時間の指導法」で道徳の内容を扱っている（佐々木 a 1-27）（佐々木 b 1-52）。また、「ポップカルチャー論」ではインターネットの抱える問題として不適切なコメントや写真・動画の投稿やデジタルタトゥーを取り上げてきた（佐々木 c 3189-3195）。

今回は中学生1～3年生を対象にしたものであるため、できるだけ新しい内容で身近な話題のものから道徳教育に相応しいものとしたが、その内容及び中学生や同席していた教員の反応などを含めた実践報告としてまとめることとした。

1 第1時間目「他者理解 世界はみな同じ、それとも世界はみなバラバラ？」（9:00～9:50）

音声及び動画を組み込んだパワーポイントを使用しながら、中学1年生から3年生（68名）を対象に合同で行った。

最初は簡単な講師の自己紹介を行ったあと、「道徳を説明するとどういふものですか？」と言う質問を中学生の何人かに聞いてみた。

- ・ 人に関係しているもの。
- ・ 人間関係に関係しているもの。

・人が暮らしていく社会に必要なもの。

道徳を説明するとどういふものですか？



『広辞苑』(2018)の定義

①人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の相対。法律のような外面的な原理。今日では、自然や文化財や技術品など、事物に対する人間の在るべき態度もこれに含まれる。

一般的な定義として『広辞苑』のものを提示した。道徳はこれまで人を対象にしていたが、「今日では、自然や文化財や技術品など、事物に対する人間の在るべき態度もこれに含まれる」という点に注目した。広くは環境問題、ゴミ問題、動物虐待、モノを大切に作る心なども含めて現在では道徳の範囲で取り扱われるものであることを紹介した。

よく言われること

- ・道徳には罰則はないが、規則には罰則が伴う。
- ・欧米は処罰型社会、日本は許し型社会と言われてきました。西洋は罪を犯したからそれに対して罰がある。罰せられないように罪を犯さないようにするという考え方。
- ・日本は相手に迷惑をかけないようにすることが美徳であり、相手に気を遣うことが小さい時から求められ、それができなかった場合には謝り、許してもらおうという構造になっている。一定の範囲を超えると法律に基づき処罰される。

歴史的に社会構造が違う

●欧米は処罰型社会

欧米は古来より狩猟や遊牧など、移動しながらの生活を送ってきた。このため一定の安定した生活を送るためには、ある一定のルールを設け、それが守られなければ、追放される。もしそのルールに従えない場合にはその地域から自ら出ていくことになる。これが宗教的なものと結びつく。例としてイギリスから新世界をもとめて船で出航したビルグリムファーゼス（清教徒の連立船祖）がある。（北）アメリカ大陸への移住である。

歴史的に社会構造が違う

●日本は許し型社会

日本は狩猟生活から定住型の農耕生活が中心の社会となる。農耕はひとりではできないため、常に協働作業を必要とする。しかも定住している。ルールを守らない人に一定の罰を与えながらも、許し、また協働作業に参加してもらおうになる。

チェスと将棋の違いに似ていますが、どういうことかわかりますか？

まずよく言われることだが、道徳と規則の違いについて簡単に触れた。道徳には罰則はないが、規則には罰則が伴うこと、欧米は処罰型社会、日本は許し型社会と言われい

ることを説明した。西洋は罪を犯したからそれに対して罰がある。罰せられないように罪を犯さないようにするという考え方であるが、日本は相手に迷惑をかけないようにすることが美徳であり、相手に気を遣うことが小さい時から求められ、それができなかった場合には謝り、許し

てももらうという構造になっている。一定の範囲を超えると法律に基づき処罰されることを紹介した。

「道徳」は特別なものではなく、学校法人武蔵野学院の建学の精神「他者理解」にもその内容が含まれている。他者理解はまず他者の存在を認め、その次に理解するように努める。他者をすぐに理解することはできない。容認するとは排除しないことが重要である。文部科学省では道徳の説明として「自立した人間として他者と共によりよく生きる」(文部科学省 別添 16-1)が取り上げられている。

このあとクイズ形式で中学生に答えてもらった。「アメリカの場合を想定していますが、さて、皆さんはどうなると思いますか？」という問いだ。

- ・おとうさんとおかさんが結婚記念日にふたりで夕食をとるため、18歳の子供は家で留守番になった。(州によって若干異なる)
- ・おとうさんとおかさんが結婚記念日にふたりで夕食をとるため、15歳の子供は家で留守番になった。(州によって若干異なる)
- ・おとうさんといっしょに近くのホームセンターに車で行ったが、興味がなかったので、12歳の子供が車で30分くらい待っている。
- ・おとうさんといっしょに近くのホームセンターに車で行ったが、興味がなかったので、9歳の子供が車で30分くらい待っている。

アメリカの児童に対する考え方であるが、どれも児童虐待に相当するものだ。日本とは全く異なる状態である。

- ・16歳の高校生がお店が混んでいたのので、缶ビールを買って、友達を呼んで近くの公園で友達と一緒にビールを飲んだ。
- ・18歳の大学生がお店が混んでいたのので、缶ビールを買って、友達を呼んで近くの公園で友達と一緒にビールを飲んだ。

・20歳の大学生がお店が混んでいたのので、缶ビールを買って、友達を呼んで近くの公園で友達と一緒にビールを飲んだ。

アメリカは18歳が成人であるが、公園等の野外では飲酒は法令上禁止されているのである。日本人的な感覚では最後の事例は一見よさそうであるが、これも法令に反する行為なのである。アメリカでは子供は守られているという印象が強い。しかし、これには誘拐をはじめ、社会全体が安全ではないという背景もあるので、単純にアメリカと日本の違いについて、「よい」「悪い」の判断はできないだろう。アメリカ社会では「銃」の存在がいろいろな方面に影響していると考えられる。

このような状況を考えると、アメリカでは絶対に考えられない日本のテレビ番組があるが、それは何かを聞いてみた。

[ヒント]

小さなこどもがひとりで、、、さて何でしょう。

『はじめてのおつかい』（日本テレビ系列）だ。アメリカなら児童虐待に相当することになる。安全な日本ならではの番組だ。さらに身近な事例としてアニメを取り上げてみた。「アメリカでは『セーラームーン』は大人からも支持されていますが、『プリキュア』は支持されていません。どうしてだと思いますか？」という問いに対して、はじめは沈黙が続いたため、戦い方にどんな違いがあるかをヒントを与えた。すると、『プリキュア』は打撃が多いという発言があった。次に『ドラゴンボール』の事例も紹介した。

● 『セーラームーン』
おもに月や水晶などからパワーを得て、そのパワーで相手と戦います。相手と離れて戦うことが多い。

● 『フルキュア』
おもに打撃を中心とした戦闘スタイル。最近では少し変わってきましたが、当初は打撃型戦闘美少女ということから、接近戦となります。

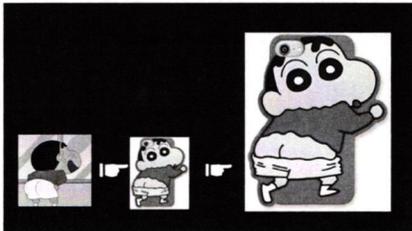
戦闘シーンが暴力シーンとして捉えられた。
しかし、「ドラゴンボール」のもつストーリーや孫悟空（カカロット）のキャラクターが理解されるようになると、うしたこともなくなり、批判もなくなるといったことになった。それ以降は欧米をはじめ、大人気のアニメとなった。

また、

『巨人の星』を知っていますか？



インドでは幼児虐待と捉えられ、放送ができなかったことがあります。捉え方は国によって様々です。
→ こんなこともありました。次のスライドへ



宗教的な制約
できるだけ肌は隠す
女性は「顔」なども隠す



児童虐待に敏感な文化ではマンガ・アニメとはいえ、こどもへの平手打ち（いわゆるビンタ）するような場面を公共の放送では流せないだろう。『巨人の星』は日本テレビ系列で1968年3月30日～1971年9月18日に放映された。当時は「巨人・大鵬・たまご焼き」と言われるくらい、巨人は大人気だった。また当時の時代では学校教育でもいわゆるビンタなども実際にあった時代だ。日本でも現在とは全く違う。『クレヨンしんちゃん』は親を呼び捨てにする言い方が当初は大きな話題となったが、このおしりを出す場面は文化によっては許されないところもあるのだ。

今では世界中で大人気の『ドラゴンボール』も当初は欧米でも非難の対象だった。それは戦闘シーンが暴力シーンとして捉えられたことや、アニメとは言え、必要以上の戦闘シーン、行き過ぎた残酷性が問題視された。しかし、『ドラゴンボール』の持つストーリーや孫悟空(カカロット)のキャラクターが理解されるようになると、こうしたこともなくなり、批判もなくなるようになった。それ以降は欧米をはじめ、大人気のアニメとなった。

次に最近の話題として『鬼滅の刃 無限列車編』の映画を取り上げた。かなりの生徒がこの映画を観ていた。日本だけでなく、国ごとに映画を公開するための基準がある。それをレイティングと言うが、これが日本は海外と比べるとかなり甘い基準となっていることがわかる。

日本の場合 PG指定
parent guidance suggested

PG12

12歳未満の年少者には保護者の助言・指導が必要となる《PG12》区分に決定した。親の指導さえあれば年齢に関係なく誰でも観覧できるとの結果に落ち着いた。親は同伴しなくても結果的に子どもだけでも見ることができる。

アメリカの場合 R指定

R (Restricted)

17歳未満の観賞は保護者の同伴が必要。激しい暴力、ヌード、薬物乱用など、成人向け要素を確実に含むと判断されたもの。子供の喫煙、拳銃発砲、無許可の外泊などを含む。

では『鬼滅の刃』の子供の喫煙、拳銃発砲、無許可の外泊についてはどうだろうか。喫煙の場面はない。拳銃発砲はないが、刀で鬼の首を切り落とすシーンや斬りつける場面がある。無許可の外泊については煉獄杏寿郎が設定では20歳であるが竈門炭治郎をはじめ、設定的には17歳未

日本での映画興行成績

順位	作品タイトル	興収(億円)
1	劇場版「鬼滅の刃」無限列車編	401.3
2	千と千尋の神隠し	316.8
3	タイタニック	262.0
4	アナと雪の女王	255.0



満である。こうした背景もあるかもしれない。このためアメリカでは子供だけで映画を観に行くことはできない。そうなれば興行収入にも大きく影響すること

なる。アカデミー賞アニメーション部門へのノミネート以前の問題だ。日本ではアニメ映画の記録を塗り変えるほどの大ヒットとなった。2021年6月13日段階での興行成績を紹介した。

では海外では日本のマンガやアニメをどのように捉えているのだろうか？英語辞典での定義を見ると次の通りだ。

Oxford Dictionary of English(2010) による“manga”の定義
a Japanese genre of cartoons, comic books, and animated films, having a science-fiction or fantasy theme and sometimes including violent or sexually explicit material.
科学小説、ファンタジーをテーマ/性描写あるいは暴力描写を含む

Oxford Dictionary of English(2010)による“anime”
Japanese film and television animation, typically having a science-fiction theme and sometimes including violent or explicitly sexual material. Compare with MANGA. Origin 1980s; Japanese
科学小説、ファンタジーをテーマ/性描写あるいは暴力描写を含む

欧米人にとって日本のマンガ、アニメは暴力的あるいは性描写については過激な面があることが指摘されている。欧米人は日本人とマンガ、アニメの捉え方が異なるようだ。

欧米の人が思っているマンガ・アニメ
子供用の楽しく、子供の心身に悪影響を与えないもの。
アメリカで言えば、ティーン映画のようなもの。

日本のマンガ・アニメ
日本のマンガ・アニメは子供向けのものであれば、10代後半を対象にしたものなどもあり、年齢の幅が広い。

日本のマンガ・アニメ
子供向けに製作されても、大人も楽しめる内容のものが多く、あるいは小さい頃から見ているため、マンガ・アニメ等を見ることに抵抗がなくなっていることも理由のひとつ。ゲームも同様。

児童虐待を含め、子供を守るという観点が強い欧米では、子供への悪

影響という点にも注意していることが強く感じとれる。

最近のマンガ・アニメで評価の分かれるものがある。『デス・ノート』、『進撃の巨人』、『東京喰種』はその代表である。『デス・ノート』はいじめの対象にもなり、『進撃の巨人』や『東京喰種』は食人のシーンがあるため、子供に見せるには相応しくないようだ。

まとめとして、中学生にあらためて確認してみた。「世界はみな同じ、それとも世界はみなバラバラ」なのか？反応は「世界はみな違う」ということだ。このため、特に海外へ旅行に行く時には、日本で当然と思っているが、現地では受け入れられないことがある。「他者理解」はまず相手の存在を認め、次にそれを受け入れていくことだ。受け入れることとは「知る」ことが重要だ。その延長線上に「理解」がある。まずは相手を「知る」ことが重要ということになる。世界は必ずしも同じではないことを知る事が重要！（休憩）

2 第1時間目の授業内容の狙い

中学校の道徳教育をどのように進めるには学習指導要領に基づくことが求められる。「第2章 道徳教育の目標」では次のような解説がある。

学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。（文部科学省 8）

上記を踏まえつつ、学校法人武蔵野学院の建学の精神「他者理解」と文科省の道徳の考え方の根底にある「他者との共生」を異文化における道徳等の考え方の違いを日本とアメリカ等を比較することでグローバル化

に対応できるよう考察を深めることができるを示すよう務めた。
さらに次のような解説も重視した。

(2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考える

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。(文部科学省 16)

道徳教育の教材はいわゆる文学作品やドキュメント記事などにより、読むことによって学ぶことが多い。これではどちらかと言えば、国語の解釈になってしまうのではないかと言う危惧がある。そのため、次の2点を意識した。

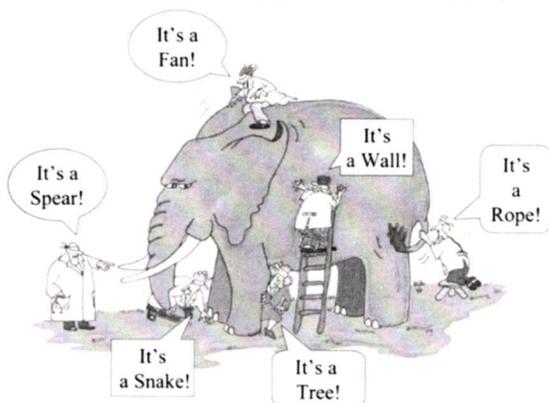
- 1 生徒の関心を高めるため、クイズ形式を取り入れるとともに、マンガ・アニメを取り上げながら身近なものからテーマを設定することで、「道徳」を教わるのではなく、海外との比較を通して多様な価値観の存在を理解することができる
- 2 生徒同士の発言から、発展的な学びへ展開すること期待しながら、生徒が講師とのコミュニケーションにより授業を展開させ、双方向の授業をすることができる。

授業では講師からの一方的な内容提示ではなく、内容や質問についてどう考えるかなど、双方向でのコミュニケーションを取りながら行うように務めた。身近な話題として『ドラゴンボール』『美少女戦士セーラーム

ーン』『プリキュア』『クレヨンしんちゃん』『巨人の星』『鬼滅の刃 無限列車編』『デス・ノート』『進撃の巨人』『東京喰種』といったアニメを利用したことで、生徒にとってはイメージがつかみやすいように務めた。

3 第2時間目「きれいな花、美しい花にはとげがある 便利なツールは危険なツールでもある」(10:00~10:50)

まず、「群盲象を評す(撫でる)」⁽¹⁾の図を生徒に見てもらった。



この図は江戸時代でもすでに紹介されていたものだが、インドの古い寓話のひとつだ。「さて、これは一体何を言いたいのでしょうか？」という問いを投げかけてみた。生徒は次のように発言した。

- ・物事は一つの方向からはわからない。
- ・見方によって物事は変わる。

筆者は次の4点を解説を行った。

- ・ものごとはひとつの方向からみても全体を見ることはできません。
- ・様々な面から捉えることが重要だということになります。
- ・自分の考えだけで進めるのではなく、他人の意見にも耳を傾け、総合的に判断することが重要なのでは？
- ・他者の言うことにも耳を傾け、自分が判断するときの助けとすることが大切です。

現在、そしてこれから避けては通れないものが2つあります。

- 1 グローバル化に伴い、国際語である英語に全く触れずに過ごしていくとはできない。将来の仕事でも海外製品を全く使っていない、海外とのやりとりのないものを見つける方が難しい。
- 2 インターネットを全く使わずに生活することも難しい。COVID-19(新型コロナ)のワクチンの申し込みをインターネットが主流。電話はなかなかつながらない、..

近い将来、誰もが直面することがある。将来就職活動する際、今はインターネットを全く使わずに就職活動することはできないことだ。インターネットで情報を集め、ネットを通して申し込みをし、さらに COVID-

19 (新型コロナウイルス) の影響を受け、現在の面談はネットを通して行われている。ZOOM や MEET と呼ばれるようなテレビ会議だ。

インターネット上のコミュニケーションが驚くほど活躍したのは、実は災害の際、電話線が寸断されて、不通となった中、他人とコミュニケーションが取れたのがインターネットだ。パソコンだけでなく、携帯電話からもつなぐことができたからだ。そのため、有線の電話より便利だった。1995 年の阪神・淡路大震災を基点に、東日本大震災 (2011) では安否確認で絶大な効果を発揮したのが SNS の力だ。

SNS がこうして災害時に大きな力を発揮したのは事実であるが、SNS には負の効果もある。

インターネット上への不適切な書き込みや気になる内容のものがマスコミを始め、様々所で話題になることがある。不適切な投稿やバイトテロと呼ばれる動画である。(ここで不適切な動画の投稿の対策用の動画を流した。



愛媛県警察公式チャンネル「【中級編】不適切な動画投稿(バイトテロ)
(中・高校生向け)

<https://www.youtube.com/watch?v=L2MN0FbzJnI>

投稿の中にはいたずらという範疇にとどまらない「犯罪」に相当するものがある。相手に被害が出れば、それは犯罪となってしまう。お店のバイト先での不適切な動画も店側に被害 (営業を著しく妨げる、印象を悪くすることで売り上げが激減するなど) が出れば、いたずれではすまされない。

これは犯罪になります

業務妨害罪、場合によっては信用毀損罪となります。店が訴えれば、法律により3年以下の懲役または50万円以下の罰金に相当します。マスコミで様々な報道があっても、こうしたあのことまで報道しないため、犯罪という認識がないのかもしれませんが。未成年者の場合には保護者に請求が来ることとなります。

デジタル社会での表現の問題

小学生や中学生はインターネットのやりとりで人間関係がうまくいかない。有害サイトや出会い系サイトなどの利用により犯罪等に巻き込まれる。

小学生や中学生はインターネットのやりとりで人間関係がうまくいかないのは、文字による表現がうまくできずに冷たい表現になり、そのため、絵文字を多用することがあります。絵文字は解釈が多くできるようになり、誤解を生むことが多々あります。♥マークはその典型。

アメリカではこんなことが、、

大人の男女同士のネット上のコミュニケーションでは、不倫同士が連絡を取り合っていた場合には、お互いに気を付けていても、もしそこに「♡」「♥」「☺」のようなハートマークがあれば、離婚裁判などで不倫が確定するという事例があります。

日本ではどうでしょうか？かなり気軽に使っている人もいるのでは？誤解のもとになるかもしれませんね。

単なる♥マークも日本とアメリカではその捉え方も全く異なる。不倫関係の裁判ではメールにこの♥マークの有無は大きな意味を持つことになる。そもそも絵文字は日本人が広めたものだ。そのことを *Longman*

Dictionary of Contemporary English (2014)より紹介した。

中学生にも絵文字の使用を聞いてみると、頻繁に利用していることがわかった。これ以外にスタンプも利用しているようだ。絵文字もスタンプも表現が単純化されるため、送り手と受け手での受け止

絵文字

絵文字 emojiがようやく紙媒体の辞書に見出し語としても入った。絵文字は、日本が世界に広げたemotionの表現方法のひとつである。Longman Dictionary of Contemporary English(2014)にはつぎのように定義されている。

n[C] an ICON, similar to an EMOTION, used in electronic messages and on websites, originally in Japan

め方が異なるため、誤解を生むこともある。

「インターネットはどこまで信用できるのか」ということを取り上げておきたい。

インターネットは信用できるのか

1)書き込み者が信頼できるかどうか、氏名、所属などを明らかにしているかどうか。(匿名ではなく、文責を負うことを承知しているかどうか)。個人ではなく特定の協会、団体、会社の場合にはそれが社会的な信頼度や知名度から判断。

匿名性の功罪

功 匿名だから本当のことが言える。地位や立場、年齢に関係なく、意見を主張できる。

罪 匿名だから嘘のことが言える。てきとうなことを言える。一番は責任を取る必要がない。(最近ではサイバー犯罪として捜査が進み、逮捕されることがある)(爆弾を仕掛けたとか、、、)

自己満足

罪 知恵袋などはよかれと思って情報を提供している場合もあるが、根拠がない情報を流布していることがある。最終的にはサイトを見た人が判断するしかない。情報過多をどう処理するか。頼りすぎもよくない。よく理解して使うことが肝心。

年齢に関係なく、カメラ機能によりいつでも、どこでも撮影ができ、さらにこれをインターネット上へアップすれば、肖像権・著作権、プライバシー等の問題へも発展しかねない。また、デジタル万引き(digital shoplifting)といった新しい問題も生じている。

デジタル万引きはまだ法制化されていませんが、これも道徳的に考えると問題があるようにも思いますが、、、デジタル万引きとはどんなことかわかりますか?これこそ、「道徳と規則」を考えるのにふさわしいかもしれません。買わずに写真撮るのは、、、

インターネット上の不適切なコメントや写真は1度インターネット上に掲載されれば、単に自分の登録アカウントを削除すれば消えるわけではないが、このあたりのことが実は理解されているようで、理解されていないことに一番の問題があります。こうした現象はネットタワーとも呼ばれている。

「ネットタワー」「デジタルタワー」とは、「ネット上の入れ墨」という意味で、1度ネットに掲載するとそれを消し去ることはほとんどできないということ。それはいったいなぜなのか?ネットに掲載・投稿した人が自らそれを削除すれば、自分が掲載したものは消える。しかし、その前に誰かがそれをコピーして別の人に送る、いわゆるリツイートしてしまえば、これが次から次へと伝わるため、最初のを消しても、

コピーされたものが増殖していくため、すべてを消さないでネット上に永久に残る。文字情報、写真も同様だ。これがデジタルタトゥーと呼ばれる所以だ。気軽さから言っても、怖いのは写真だ。変な写真ほど面白がってみんなが次から次へとコピーする。めぐりめぐりって数年後、自分が就職の時期に変な写真を見つかけられると大きな痛手となる。自分で掲載しなくても、友達が掲載したものに自分が写っていれば、、あー怖い！自分ひとりで注意していても防げないのが実情だ。

人は何故、インターネット上でのコミュニケーションを気にするのか？

・承認欲求

・FOMO(説明はあとで)

このふたつが大きな鍵を握っています。自分が誰なのかを隠して参加できることから、いいことと、悪いことがあります。

承認欲求

山竹伸二『認められたい』の正体』(2011)

現代は承認への不安に満ちた時代である自分の考えに自信がなく、絶えず誰かに認められていなければ不安で仕方がない。ほんの少し批判されただけでも、自分の全存在が否定されたかのように絶望してしまう、そんな人間があふれている。

[親和的他者].....愛と信頼の関係にある他者(家族、恋人、親友)→親和的承認

[集団的他者].....集団的役割関係にある他者(学校の級友、職場の同僚)→集団的承認

[一般的他者].....社会的関係にある他者一般の表象→一般的承認

インターネット上の承認とは

親和的他者、集団的他者のように関係性のあるものではなく、全く関係のない、むしろその存在さえしない一般的他者から承認を得られるところに大きな特徴がある。ネット上に新しい自分を作り出せる。細田守監督『竜とそばかすの姫』(2021)もこうしたことがテーマになっている。



また「承認されたい自己」として瀬沼文彰『キャラ論』(2007)では次のように現代の若者について述べている。

イギリスの社会学者のアンソニー・ギデンズの見解を借りれば、社会の近代化が進むにつれて、血縁関係よりも、人々の自由意志によって

選択できる友人関係や恋愛関係が重視されることを述べています。家族より友人が重視される社会では、友人と楽しまなければ、他者との繋がりが実感できず孤独を強く感じてしまうのかもしれませんが。この世代の特徴は、友人や恋人関係のような仲間内だけに親密さを感じ、外部にあたる他者には関心を示さない傾向がある。(pp.208・209)

インターネット上だけの友達とは実態のないものだ。ネット上で確かに自分を認めてくれる存在ではあろう。何をもって「友達」というかも問題はあがるが、自分にとって都合がいい、自分を認めてくれれば、顔も知らなくても、ネット上の人でも「友達」と思う人もいる。見えない相手をどこまで信用するか、それはあなたが自分で判断するしかないのだ。

実態のない友達

何をもって「友達」というかもありませんが、自分にとって都合がいい、自分を認めてくれれば、顔も知らなくても、ネット上の人でも「友達」と思う人もいます。見えない相手をどこまで信用するか、それはあなたが自分で判断するしかありません。

FOMO

インターネットの普及により新しい言葉、概念、現象が次々と誕生している。その中の一つが FOMO (fear of missing out) である。その定義をまず確認しておきたい。

FOMO

ソーシャルメディア(交流サイト)のチェックを怠ると落ち着かず不安になることを意味する言葉。「fear of missing out」(「取り残されると不安」との意味)の略語。ソーシャル依存症とも言われる。16～35歳という広い範囲の年代に起こり、極端な場合、数十秒～数分ごとにモバイル端末をチェックせざるにいらなくなり、ストレス症状が起きたり日常生活に支障を来すことがある。派生語に、FOMO 症候群、FOMO 中毒などがある。

承認欲求の背後にあるものはまさに FOMO ということになるのではな

いだろうか。

ここまではインターネットの負の面を取り上げて来また。当然、インターネットの良い点にも目を向ける必要がある。



インターネットは直接 世界に発信できる

- ・英語さえできれば、インターネットを通して自分の考えを世界中に発表することができます。誰かの力を借りずに可能なのです。
- ・インターネットは文字だけでなく、画像、映像、システムを使えば、テレビ電話にもなります。世界中のひとに電話もすることができます。無料のシステムを使えば、顔を見ながら電話もできるのです。

インターネットは個人で アピールできる

- ・情報のスピードはTVよりも速く、リアルタイムで情報が入手できる。
- ・プロダクションや会社に関係なく個人の方で発信できる。
- 情報の内容により自分で責任を負うことにもなる。誰も守ってくれません。
- ★セキュリティをしっかりとしないと情報が漏洩しプライバシーが侵害されてしまう危険がある。

YouTube から人気を獲得した芸能人もいる。自分で売り込み、成功した例だ。小学生のなりたい職業にもユーチューバーがすでに上位になっている。インターネットは個人の責任も大きくなる。反対に、世間を騒がせる悪質なユーチューバーもいる。最悪の場合には警察に逮捕され、今や裁判沙汰になるような迷惑行為や違法行為さえ行うものもいる。

きれいな花、美しい花にはとげがある。便利なツールは危険なとげがある。正しく使い、正しく恐れる。危険（リスク）を理解し、それを回避する工夫をすることが重要ではないだろうか。（終了）

4 第2時間目の授業内容の狙い

第2時間目の授業では「情報モラル」をメインとした。では学習指導要領ではどのように捉えているだろうか。

(1) 情報モラルに関する指導

社会の情報化が進展する中で、生徒は、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは、学校の教

育活動全体で取り組むべきものであるが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

ア 情報モラルと道徳科の内容

情報モラルは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度と捉えることができる。内容としては、情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークがあるが、道徳科においては、第2に示す内容との関連を踏まえて、特に、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが考えられる。指導に際して具体的にどのような問題を扱うかについては各学校において検討していく必要があるが、例えば、思いやり、感謝や礼儀に関わる指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられる。また、情報機器を使用する際には、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともあるため、指導上の配慮を行う必要がある。(文部科学省 99 頁)

この解説から生徒の can do を考えてみると以下のようなだろう。

- 1 上記を踏まえつつ、情報モラル、特に情報社会の倫理について理解を深めることができる。
- 2 生徒の関心を高めるため、ニュースなどで取り上げられているもの、将来直面するようなりリスク回避を含め、公德心について理解することができる。なお、小山一馬講師が取り上げた「いじめ」等の内容とは別に、社会全体で問題になっていることを取り上げ、生徒は視野を広げることができる。

インターネットの利用、特に SNS では「自己承認」が大きな要因とな

っていると考えられる。当然、「自己承認」が悪いわけではない。「自己承認」の背景には他人からの評価、他人からどう思われるかといったことが根底にある。ここで考えなければならないのが「自己を見つめる」ということだろう。学習指導要領では次のように取り上げている。

(1) 自己を見つめる

道徳性の発達の出発点は、自分自身である。中学生の頃から、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。(文部科学省 15・16)

この解説から生徒の can do を考えてみると以下のようなだろう。

- 1 承認欲求と FOMO については理解を深めることで、自己を客観的に見つめなおす機会ともなり、自己を確立してくうえでの一助とすることができる。
- 2 インターネットは個人で世界中に発信することができる。しかしそれにはリスクもあるため、十分な注意も必要なことが理解できる。

情報モラルについては啓発用に公開されている映像教材なども実際に中学生に見てもらったこと、また、インターネットを活用して個人で発信を続け、ユーチューバーとしてテレビ等でも取り上げられるようになったヒカキンやふあちゃんなどの実例を示すことによって、身近な話題も取り上げた。できるだけ身近な事例を紹介した。

5 生徒の反応

2 時間目の後半 15 分ほど時間を設定し、以下のワークシートに記入してもらった。回答数は 41/68 であった。

- 1-1 あなたは日本のマンガ・アニメは暴力性や残虐性があり、そのことがみなさんに悪い影響を与えていると思います。
- 1-2 あなたは日本のマンガ・アニメを読んだり、観たりしたことはありますか。もしあればそれはどんな作品ですか。「ない」場合には「なし」と書いて下さい。
- 2-1 あなたはメールは LINE など、インターネットをする際にどんなことに気を付けていますか。
- 2-2 バイトテロ、デジタル万引き、デジタルタトゥーについてこれまでニュースなどで聞いたことはありましたか。
- 3 今日の道德の授業を聞いた感想を書いて下さい。

「1-1 あなたは日本のマンガ・アニメは暴力性や残虐性があり、そのことがみなさんに悪い影響を与えていると思います」については概ね 5 種の回答があった。

思う	8	
少しあると思う	5	「少ししかない」も含まれる
場合による	9	年齢やマンガ・アニメによる
思わない	18	
設問と合わない回答	1	

程度や場合によるものを含めると悪い影響があると思うと回答したのは 22/41 となり、53.7%であった。授業で欧米の事例を取り上げたことも

あろうが、全体的な判断をしようとする方向性が見られた。悪い影響があると回答した中には、「悪い影響を与えていると思うが、自分にはない」というものもあった。判断基準として「自分」にだけ当てはめている事例があるかどうかは今回のワークシートでは判断できないが、

「1-2 あなたは日本のマンガ・アニメを読んだり、観たりして感動したことはありますか。もしあればそれはどんな作品ですか。「ない」場合には「なし」と書いて下さい」では以下のような作品が取り上げられた。

『ドラえもん』『クレヨンしんちゃん』『ルパン三世』『七つの大罪』『ワンピース』『進撃の巨人』『アンパンマン』『鬼滅の刃』『ハイキュー』『プリキュア』『僕のヒーローアカデミア』『呪術廻戦』『HUNTER×HUNTER』『キングダム』『東京リベンジャーズ』『五等分の花嫁』『約束のネバーランド』『君の膵臓を食べたい』『新世紀エヴァンゲリオン』等

具体的な内容を書いている生徒もいたが、複数で言及されていたのが、『鬼滅の刃 無限列車編』での煉獄杏寿郎の言葉やその生き様、『僕のヒーローアカデミア』での個性の考え方などだ。

「2-1 あなたはメールはLINEなど、インターネットをする際にどんなことに気を付けていますか」では、中学生らしく、先輩への言葉使いなどが多く寄せられた。

「2-2 バイトテロ、デジタル万引き、デジタルタトゥーについてこれまでニュースなどで聞いたことはありましたか」では概ね次のような結果であった。

聞いたことがある	30	
聞いたことがない	10	1件が無回答。

73.2%の生徒がニュース等でバイトテロのような内容のものを知っていたことになる。

「3 今日の道徳の授業を聞いた感想を書いて下さい」については様々な内容のものが寄せられた。(カッコ内は筆者が補足した)

- ・世界によって文化も番うので、日本ではいいことも海外だとだめだったりして自分の見る目がひろ(広)がったき(気)がした。
- ・自分が良かれと思ってやっても、他人にとっては迷わくになっている事が分かった。
- ・安全に使っていると思っても、知らないうちに炎上するものをかいているかもしれないので気をつけようと思った。
- ・バイトテロの動画でふざけると身を滅ぼすことが分かった。
- ・アメリカと日本の法律の差が全然ちがくてびっくりした。
- ・州や国によって法律や考え方が分かった。
- ・外国の法律の基準は日本の法律の基準とは全々(全然)違うということを知った。
- ・日本とそれ以外のところとの違い、法律の違いがわかった。
- ・アメリカが日本のアニメにあんなにきびしいことを初めて知った。
- ・日本では普通に見ているマンガやアニメが海外だと禁止されているものがあるということを今日初めて知りました。
- ・国によって(映画館での上映やTV放映で)アニメの基準がばらばらだとしった(知った)。
- ・日本で放送できても海外でも放送できなかつたり、上映できないものがあると知って驚きました。
- ・悪ふざけでバイトテロのような動画をさつえい(撮影)、とうこう(投稿)をしない(してはいけない)ということがわかった。
- ・デジタルタトゥーこわすぎ。

- ・LINE や Youtube は削除をしようとしても誰かしらは保存しているから気を付けたいと思った。(友達とかも信らい出来る人が良いなと思った。)
- ・「きれいな花、美しい花にはとげがある」で、確かにインターネットにはいいアプリでも必ず裏で良くないことをしているからなあ〜と思った。
- ・「きれいな花、美しい花にはとげがある」で、人にもおきかえられると思った。良い人だと思っても性格を作っていたり、そうゆうのを見ぬける力を欲しいと思った。先を考えて行動していきたいと思う授業だった。
- ・インターネットを使うことで生活はゆたかになるんだなと思いました。でもゆたかになるにつれてリスクをとまうのでこれからもそのリスクに気を付けながら生活していきたいと思いました。
- ・インターネットは便利だけど怖いものだと思改めて感じた。
- ・今日の授業を聞いて感じたことは、人にはいろいろな考え方がるなど改めて思いました。なぜなら自分達は面白いと思っけていても外国の人からすると、これはよくないと思う人がいるからです。そしてもう一つあってそれはインターネットの使い方です。自分はインスタをやっているのです。そういうふざけた投こうとかはしないように意識します。

概ね筆者の狙いは達成されたと判断できよう。

エピローグ

高等学校については模擬授業等で頻繁に訪れる機会があったが、中学校についてはいわゆる授業で訪れる機会はこれまでほとんどなかった。小学生については狭山市や川越市で実施されている子ども大学ではてな

学というジャンルで授業をすることがこれまでもあった。⁽²⁾地方公共団体の教育研究所で中学生を対象にした授業を2014年2月に4日間行ったこと⁽³⁾はあったが、久し振りという印象があった。

今回は「道徳」ということから以下のことを強く意識して行った。

- 1 学習指導要領に沿った内容にすること。前回の授業内容と重複しないようにすること、2時間あることから、内容を2種類にすることを心掛けた。
- 2 筆者が国際コミュニケーション学部所属の教員ということから、「国際」という視点を組み入れた道徳の授業を行いたい。
- 3 中学生にとってできるだけ身近なものを教材として道徳の授業を展開したい。マンガ、アニメ、ゲームなど教材として利用したい。
- 4 中学生はアルバイトはできないが、バイトテロのような社会的に大きな問題となっているものを取り上げたい。
- 5 パワーポイントを中心に進めるため、文字情報だけでなく、映像やBGMなども多様し、テレビ番組を観覧席で見ているような雰囲気を進めたい。途中で質問などを行い参加型、アクティブラーニング的な要素を取り入れたい。

道徳の授業では中学校の先生もいっしょに参加して、終了後に次のようなコメントを戴いた。

- 1 道徳の授業は活字になったものを読み、それについて議論することが多く、国語の授業のような内容となってしまうことが多く、今日の授業はマンガやアニメ、特に『鬼滅の刃』などはほとんどの生徒が知っているだけに、アメリカでの上映条件（映倫）などは刺激的だった。
- 2 バイトテロでは短くてわかりやすい動画の紹介は有効だったと思う。

- 3 パワーポイントのスライドに工夫がされていて、生徒が飽きることなく、授業に取り組めた。
- 4 質問コーナーなどがあり、生徒とのやりともあって、生きた授業だった。

今回の道徳の授業では道徳的に「良い、悪い」と言う点よりも、ひとりひとりがどう受け止めるか、どう考えるかに主眼を置いた。実は7月10日(土)以前に6月22日(火)の大学の授業「ポップカルチャー論」では『鬼滅の刃』を中心に映画のレイティングを取り上げ、日本のアニメーション映画やTVアニメが海外で公開で制限のあること、6月29日(火)には大学の授業「総合的な学習の時間の指導法」で情報モラルについては取り上げており、大学生の反応も一つの参考にしたが、内容はほぼ同様に使用し、周辺の説明を丁寧することで補足を行った。

今回の授業では予め意識する点、ポイントにしたい点が中学生にもうまく伝わったこと、生徒の反応を中学校の先生方からも聞けることができたことは大きな収穫であった。教職課程では「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」(義本 1-12)として来年度よりあらたに新設させるという発表もあったが、情報機器、情報通信技術の活用は今後もさらに求められることになる。道徳は文化によっても大きく異なることがあり、さらに時代によっても変化して来る。常に新しい情報をキャッチし、教材としての活用の可能性を探求していきたいものだ。

注

- (1) 「群盲象を評す(撫でる)」はインドの寓話であるが、仏教説話より、「阿含経」「六度集経」「北本涅槃経」「菩薩処胎経」等に見られるという。日本では江戸時代に葛飾北斎もこの図を描いている。視野の狭い者が多く集まり、それぞれの観点から理解したことを述べ、結果として物

事の本質が見失われている状態や視野の狭い者は、いくら集まったところで、本質を理解することは難しいという喩えとして利用される。今回この図を用いたのは「視野の狭い人」を人全体、象をインターネット世界になぞらえた。インターネットは文字通り実体を見ることができないものであり、それを利用している人は自分の立場から利用しているにすぎないことから、この図を用いた。「木を見て森を見ず」とも共通するところがある。

- (2) 「アニメ、スーパー戦隊シリーズからこんなことがわかる！」(子ども大学さやま 武蔵野学院大学・武蔵野短期大学、2014年1月18日) / 「スーパー戦隊シリーズ、ドラゴンボール、ポケモン大集合！ マンガ・アニメでも勉強するぞ!？」(子ども大学さやま、武蔵野学院大学・武蔵野短期大学、2016年10月15日) / 「スーパー戦隊、ドラゴンボール、ポケモンで勉強!？」(NPO法人子ども大学かわごえ、会場：東京国際大学第1キャンパス3号館314教室、2017年11月25日) / 「時代と共に変わるヒーローの姿：スーパー戦隊シリーズ、仮面ライダー、僕のヒーローアカデミアから何がわかるのか！」(子ども大学さやま、武蔵野学院大学・武蔵野短期大学、2021年11月27日 予定)

※内容については「佐々木隆研究室」(<https://ssk.econfn.com/newpage2.html#kougi1>)を参照のこと。

- (3) 「ポップカルチャーとオタク文化」(入間市教育研究所 特別授業、2014年2月20日～21日、24日～25日)

※内容については「佐々木隆研究室」(<https://ssk.econfn.com/newpage2.html#kougi1>)を参照のこと

引証資料

義本博司(2021)。「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の

施行等について(通知)」、文部科学省総合教育政策局、3文科教第438号令和3年8月4日。

佐々木隆 a(2020).「英語教育に見る道徳的観点」、『新教育課程研究』第13号、武蔵野教育研究会。1-27頁

佐々木隆 b(2020).「障害者スポーツの表現を巡って—adapted sports とは何か」、『新教育課程研究』第19号、武蔵野教育研究会。1-52頁

佐々木隆 c(2020).『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室。

文部科学省(2017).『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編(平成29年告示)』、文部科学省。

文部科学省中央教育審議会(2016).「道徳性を養う学習と、道徳教育で育成を目指す資質・能力の整理」(別添16-1)

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/12/12/1380468_3_4_4.pdf)(2021年8月1日アクセス)

【キーワード】 道徳、規則、他者理解、バイトテロ、デジタルタトゥー

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授

新教育課程研究 第25号

2021年11月30日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室

Studies on New Curriculum

Number 25

30 November, 2021

The Society of Musashino Education Studies